



小須戸公民館報

発行 小須戸町中央公民館
〒956-0101
新潟県中蒲原郡小須戸町
大字小須戸117番地
TEL (0250) 38-2234
FAX (0250) 38-5210
編集 公民館報編集委員会

小須戸町中央公民館の「なかみ」

～町民のニーズにあった館を目指して～



中央公民館長 阿達 昭 五

ちよこつと一言

(133)

「自分の番」

矢代田五

堀川 英子 さん

私は弥彦山を眺めるのが好きです。山には、若くして亡くなった伯父や妹の魂が宿り、私たちを見守ってくれているように思えたからです。矢代田から小須戸へ行く時、私はいつも山に向かって「今日もよろしくお願ひします。」と呟っていました。この間、相田みつおの「自分の番」という詩を読みました。



そこには「今ここに自分が生きていっているのは、父と母の先祖をさかのぼって二十代前まで数えていくと、なんと、百万人を越す。」と書いてありました。私は、多くのご先祖様が残してくれた伝統を受け継ぎ、今ここに自分の番を生きている。これから一つでも生きたあかしを加え、次の世代へ渡したいと思いました。今私は、山に向かい百万人を越すご先祖様に感謝して努力することを誓っています。

新しい年度を迎え、公民館事業が企画され活動がスタートしました。

昨年年度は、町民の皆様からご支援ご協力をいただき厚くお礼を申し上げます。今年度も旧年に倍してのご指導を賜りますようお願いいたします。公民館は、町民の方々が集まり、自分の意志で学び、自己を高める研修の場であり、また、芸術文化や諸事業に参加したり、時には地域の問題について話し合い、連帯感を深め地域の活性化を図ることも、公民館活動のねらいとしています。是非公民館のご利用をお待ちしています。

公民館事業について

本年度の講座、教室等については、三月号の「小須戸公民館報」情報「こすど」にご案内いたしました。

昨年六月、町教育委員会が実施した生涯学習に対する意識調査では、希望する学習内容は「園芸・盆栽」「パソコン」「習字・ペン習字」等でした。学習方法は中央公民館の講座を希望された方が多くおられました。この希望に答えられるよう短期の講座、講習会、教室等の事業を考えています。

特に、若い人たちが公民館活動を理解し、公民館事業に参加できるよう「ヤング体験セミナー」の充実を考えました。気軽に自由に友達を誘い

合いながら参加できる、中華料理づくり・水上スキー等のマリンスポーツの体験活動を重視しました。

この体験を通し仲間づくり、趣味の拡大、自己啓発をすることにより公民館活動の楽しさを知り、地域づくりの意識の高まりも期待しています。生涯学習等に関係ある情報については、公民館報はもとより「情報こすど」を情報源として充実を図りたいと考えています。

身近な日常生活の出来事や、講座、教室、研修会の案内を随時お伝えし、生涯学習を高めるうえでの一助になるよう努めていきます。又、公民館ロビーを町文化協会のご協力により、美術・文芸作品を展示し「憩いの場」としての活用を行っています。

公民館運営について

公民館事業は、公民館職員(二名)が企画し、公民館運営審議会で審議され決定します。(審議会委員は、町教育委員会より委嘱されます。)

決定された事業の実施計画は、職員が立案し、日時・会場・内容・講師依頼等、町民のニーズに答えられるよう創意工夫をしています。

公民館報の発行は、各月ごとに職員が企画し、原稿依頼を行います。編集は、公民館から委嘱された公民館報編集委員が、内容等を検討し作成

図書室は、生涯学習や種々の学習に利用できるよう、各種の書籍や資料を収集、整理、保存し利用者の要求に応じて貸し出しています。

図書室の運営は、公民館から委嘱された図書委員が、町の読書活動の振興や新刊図書購入の選定を行い、図書室の整備充実を図っています。又、毎週金曜日、午後七時から九時まで夜間の貸し出しも行っています。

公民館運営は、公民館職員を中心として、多くの人々の協力により成り立っています。

公民館の使用について

公民館の施設は、一階に事務室、サークル室、ロビー、そして図書室。二階に会議室(畳の部屋)、学習室、視聴覚室、調理室。三階はホールがあります。

公民館使用は、「一般町民のグループ」の方が使用した場合、公民館に空室があるか確認のうえ、使用申請書を使用五日前までに提出し許可を受けて使用できます。

公民館の「利用登録団体」として認められている団体は、団体登録申請書を提出し、公民館運営審議会にて審議、承認を得て、定期的な利用が認められています。

公民館は、町民の生涯学習の場であり、地域づくりの話し

し合いの場として町民の方々に利用されています。

公民館を支えているのは町民の皆さん一人ひとりです。公民館事業や運営等について、ご意見を頂きながらご指導ご協力をお願いいたします。

平成十一年度

小須戸町文化協会総会終了

三月二十七日(木)。中央公民館三階ホールに於いて、平成十一年度小須戸町文化協会総会が行われました。

五十三団体の中から百三十名以上の会員の方々が集まり開会。

助役さんをはじめ来賓の皆様から祝辞をいただいた後、議事に移りました。

平成十年度は、各団体が開く入門教室の開催をとおして後継者及び、後継団体の育成指導を事業計画の中心に置きました。今年度も引き続きこの事業を推進して行きます。また、会長に高橋忠太郎さんが新たに就任しました。十二年目を迎えた文化協会。小須戸町の文化活動の一層の充実と発展に努めていただきたいと思います。



お知らせ

公民館ロビーで作品展示を行っています。四月末まで「拓本研究会」が展示。

五月は「山川会」(かな書道)が展示予定です。ぜひとも足を運んでいただき、くつろぎながら作品をご覧ください。

越後 替女唄

去る三月十一日「高齢者生きがい講座」が開催され、老人福祉センターの大広間は、満員の観客で熱気に包まれていました。

当日の内容は、越後替女唄を聞くというものでした。

現在「替女さん」として国の無形文化財に指定されている人は唯一人、小林ハルさんという方で、九十九歳になられ、黒川村老人ホームで、余生を送っておられます。

その小林ハルさんの数少ない継承者が、今回講演をお願いした萱森直子さんです。

小林ハルさんは、昭和初年の頃に小須戸町本町四丁目十六年間暮らしておられたとのこと、いわば彼女にとって第二の故郷と云えるでしょう。

更に、奇しくも萱森さんの旦那さんのお実家が隣の本町五丁目であることも替女唄に対するお二人の情熱が呼び合った因縁を感じます。

当日の演目の中に「葛の葉子別れ」という物語があり、ある男に、恩を受けた狐が人間となつて尽くすうちに一子をもうけ、やがてその子との別れが訪れる……。

その慕情が独特な三味線の旋律と、澄み切った萱森さんの唄声とともに会場いっばいに響きました。



三味線の音にあわせ、想いを込めて唄う萱森さん。



会場をいっばいに埋めた方々。拍手にも「想い」が感じられます。

聞いていた人の目は、輝き、潤み、その旋律の中に溶け込んでいくようでした。中には、幼い頃に聞いた門付けの替女唄が、当時のそれぞれの幼い思い出と共に蘇っていたのでしょうか。貧しかったあの頃、年に一回訪れる替女さんの唄は、疲れた心に、ほのほのとした贈りものを残していったのでしよう。年を重ねた今、老人の方々には、ご家族のために様々な人生を懸命に生きてきた道のりがあったことを、けつして忘れてはいけないと、その表情を見ながら感じていました。当時は、この講座が開講して以来、最高の一六〇名の皆さんが参加されました。「ばか、いかったいね……」こんな言葉をかけてくれました。今は、「民俗芸能」としてその価値が見直され国無形文化財に指定されています。小須戸町に因縁のある、お二人によってこの替女唄が唄い継がれていくと思うと、誇りに感じています。萱森さんは、「小林さんに、小須戸で講演しましたと云ったらさっさと喜んでくれるでしょう」と云って、さわやかな笑顔を残して、帰って行かれました。

催し物ご案内

◎スプリング

◎社交ダンスパーティー

日時 四月十八日(日)
午後六時半～九時十分
会場 ふれあい会館
会費 七〇〇円
主催 小須戸町社交ダンスクラブ
後援 小須戸町中央公民館
小須戸町文化協会

◎アートフラワー

アレンジメント教室
色とりどりの「ミニブーケ」を作りまます。
日時 四月二十日(火)
午前十時から
会場 中央公民館
材料費 三千元
申込先 中央公民館
※持参する物はハサミ、ペンチ、セロテープ。

◎アートフラワー

アレンジメント教室
生花を使って花器に飾りつけをしてみませんか。
お花屋さんみたいなアレンジメントができます。
日時 五月十日(月)
午前十時～十二時
会場 中央公民館
参加費 一回、三千元(材料費定員 十五名)
申込先 中央公民館
申込月切 四月二十六日
講師 小柴美和さん
持参物 はさみ、ペン、持ち帰り袋、ゴミ袋

◎ラジ体操

早朝のすがすがしい空気をいっばいに吸いこんで、ラジオ体操をしましょう。
日時 五月二日(日)、三日(月)、四日(火)、五日(水)、九日(土)
午前六時十五分現地集合(雨天中止)
会場 信濃川親水緑地公園

代表指導者 高山泰栄さん 主管 小須戸町ラジオ体操普及の会

◎五月のおもしろ雑学講座

※会費無料
日時 五月十四日(金)
午後七時三十分～九時
会場 中央公民館二階会議室
講師 笠原誠さん
テーマ 「演歌のミニ歴史」
◎フラワー

◎アレンジメント教室

生花を使って花器に飾りつけをしてみませんか。
お花屋さんみたいなアレンジメントができます。
日時 五月十日(月)
午前十時～十二時
会場 中央公民館
参加費 一回、三千元(材料費定員 十五名)
申込先 中央公民館
申込月切 四月二十六日
講師 小柴美和さん
持参物 はさみ、ペン、持ち帰り袋、ゴミ袋

◎ラジ体操

早朝のすがすがしい空気をいっばいに吸いこんで、ラジオ体操をしましょう。
日時 五月二日(日)、三日(月)、四日(火)、五日(水)、九日(土)
午前六時十五分現地集合(雨天中止)
会場 信濃川親水緑地公園

このコーナーでは悩んでいること、考えていること、あるいは感動したことなどを記事として投稿していただき、それぞれ皆さんで考えていただくコーナーです。投稿記事を読んだ感想や解決事例なども合わせて募集します。ぜひご投稿ください。

投稿記事募集

このコーナーでは悩んでいること、考えていること、あるいは感動したことなどを記事として投稿していただき、それぞれ皆さんで考えていただくコーナーです。投稿記事を読んだ感想や解決事例なども合わせて募集します。ぜひご投稿ください。

募集要項

対象 中学生以上の一般市民
内容 学校や家庭、友達や人間関係などにおける悩み。感動したことなど。及び記事を読んだ感想や解決事例。
字数 五百～五百二十文字
投稿方法 郵送を原則とし、一少年、一高校生、一女性などの匿名で結構ですが記名も自由です。
郵送先 〒九五六一〇一〇一 小須戸一七番地 中蒲原郡小須戸町大字 小須戸中央公民館 「私は思う、私は考える」係

◆「町民団暮大会」成績結果

三月二十八日(日) 中央公民館に於いて開催されました。参加者二十一一名。(敬称略)
Ⅱ大会成績Ⅱ
一位 野崎 昭夫
二位 五十田 巾夫
三位 渡辺 参

◆「今、子どもたちは」

三月一日から「六年生ありがとう週間」が行われました。六年生と一緒に遊んだり、感謝の気持ちを手紙に書き表したりしました。クライマックスは、六日(土)に行った六送会です。
五年生と四年生の実行委員会を中心として計画をたて、全校児童が六年生との最後の集会を楽しみました。
「六送会で、私はくす玉が一番きれいだなと思いました。六年生のげきはとてもおもしろくて、長いげきをやっていてもあきなかったの、さすが六年生だと思いました。」(五年生女子)

VOICES & VOICES

私は思う VOICES
私は考える VOICES

投稿記事募集

このコーナーでは悩んでいること、考えていること、あるいは感動したことなどを記事として投稿していただき、それぞれ皆さんで考えていただくコーナーです。投稿記事を読んだ感想や解決事例なども合わせて募集します。ぜひご投稿ください。

募集要項

対象 中学生以上の一般市民
内容 学校や家庭、友達や人間関係などにおける悩み。感動したことなど。及び記事を読んだ感想や解決事例。
字数 五百～五百二十文字
投稿方法 郵送を原則とし、一少年、一高校生、一女性などの匿名で結構ですが記名も自由です。
郵送先 〒九五六一〇一〇一 小須戸一七番地 中蒲原郡小須戸町大字 小須戸中央公民館 「私は思う、私は考える」係

シリーズ 「今、子どもたちは」 (32)

「六年生ありがとう」 小須戸小学校

「他の学年が私達を送るために毎日がんばってくれたと思うと感動です。一年生から五年生がやってくれた六送会は、すっごく楽しかったです。」(六年生女子)

多くの保護者も参観した心あたたまる一日でした。

文芸欄

踏み入れば春の音する雑木山 吉沢文子
つつがなく免許更新春の雪 藤井ハルエ
栄転と言へど单身花こぶし 牧野信雄
姐の乾きしままや春の風邪 山崎しず枝
春雪に声弾ませて野菜市 井本マツ子
波除けの沖黒々と春の涛 中野太浪
茶柱の斜めに立ちて建国日 間野良遊
天上へ千年の森牙返る 吉田素系
啓蟄の換気扇よりカレーの香 丸山虚秋

柳 入学に祖母振興券出したが 増井都留
桜咲く祝いの門出親子連れ 保科一路
子へ夢を賭けて振り込む入学金 高橋ただし
川 新入生背中に余るランドセル 渡辺信子